



清心道中金好草鞋 十四

越後行脚

逍遙文庫
文庫 6
1004
14



文庫6
1004
14

方言修行金草鞋

茲に秋交酉甲戌妻步續きて此産茶鞋靴編
 と梓行一祥ふとよふ約き其續と需る人あり
 仰せと年奥羽の辻の編と書律綿衣堂
 類みせいふも原より平が不安山の地を
 仍く去杖越後行術の記りともまき金草
 鞋とて此春の新板と云

十返舎一九題(貞) (氏)

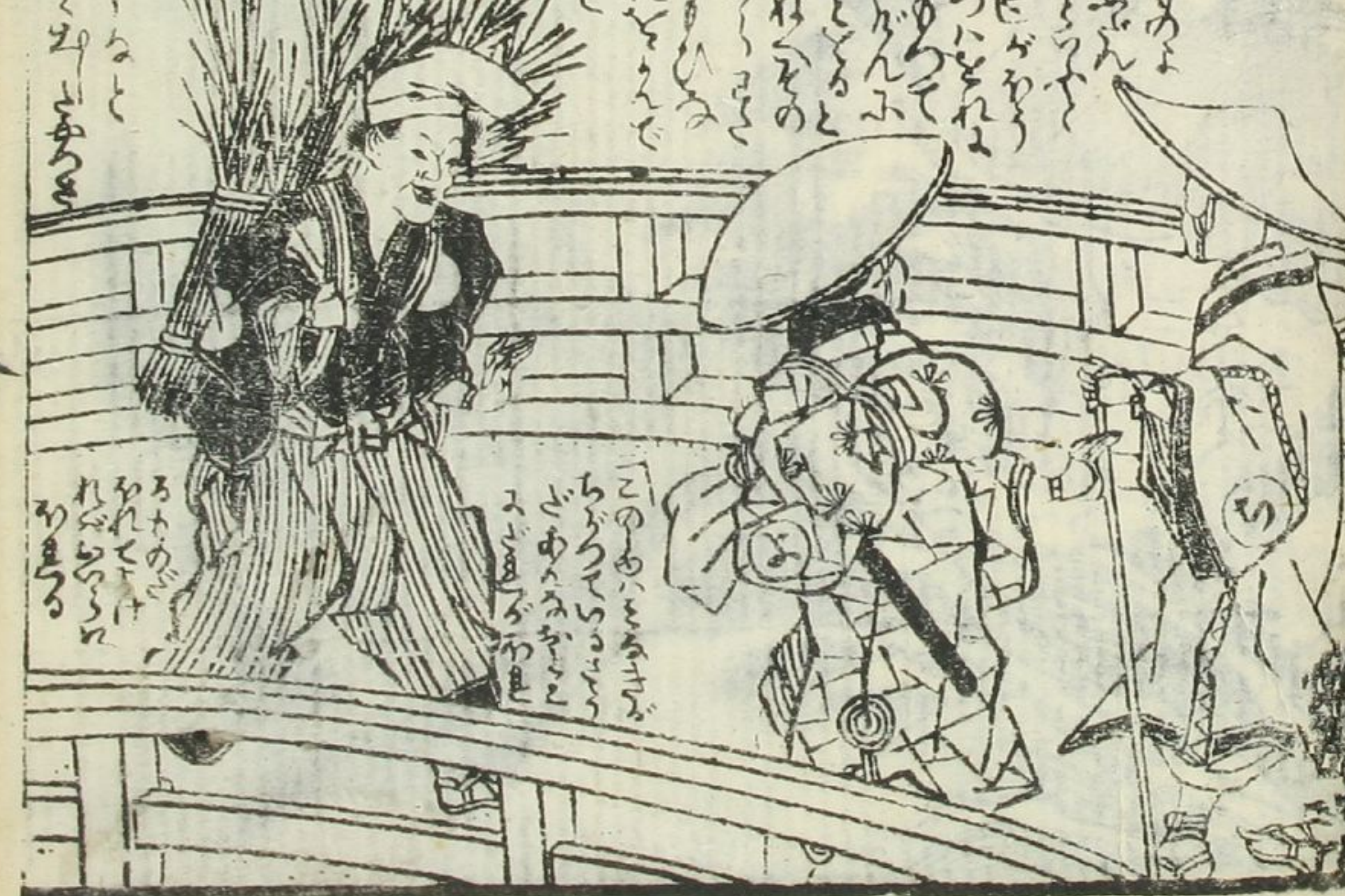
まゝていさしは奥及夜川の程と鼻毛の延き平々言訪あ人法は見物の増極
 かり七五五の東風の膝土下もの様ねとらると月及一とまきより津屋
 南那のく行辨のちひき後よふられもあしと仙臺より今もは
 小出もまきと戦後海一見の舟もしたまふとものあり作者まき
 一見の地をれは足すのくまきと月と山探ふゆふものあり

天満

ちけさるのびら... 天満の... ちけさるのびら... 天満の... ちけさるのびら... 天満の...



津川



源流記

此の山は... ありありと見ゆ...
 山頂の... 雲霧...
 谷間の... 清流...
 松林... 蒼翠...
 行者... 杖...
 此の山は... ありありと見ゆ...
 山頂の... 雲霧...
 谷間の... 清流...
 松林... 蒼翠...
 行者... 杖...



此の山は... ありありと見ゆ...
 山頂の... 雲霧...
 谷間の... 清流...
 松林... 蒼翠...
 行者... 杖...
 此の山は... ありありと見ゆ...
 山頂の... 雲霧...
 谷間の... 清流...
 松林... 蒼翠...
 行者... 杖...

本編

おそれながら
おそれながら
おそれながら

おそれながら
おそれながら
おそれながら

おそれながら
おそれながら

おそれながら
おそれながら
おそれながら



おそれながら
おそれながら
おそれながら

本編



おそれながら
おそれながら
おそれながら

おそれながら
おそれながら
おそれながら

新法地

まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて
まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて
まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて

⑤ 申すの事
ふらふら
とまて
まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて



まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて
まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて

⑥ 申すの事
ふらふら
とまて
まふまといふ
かまじのり
ふらふら
とまて



柏崎



柏崎

〇五十七番にてあるがあふゆる
ちやうどおなじとさかざりて
さふらたれどつくしけれぬか

けふは
あつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた

おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた

おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた

おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた
おあつた

瓢宅

鯨の波



① 海のほとり
 ② 山をのぞく
 ③ 舟を待つ
 ④ 酒を飲む
 ⑤ 傘を開く
 ⑥ 舟を乗る
 ⑦ 山を登る
 ⑧ 木を切る
 ⑨ 石を積み
 ⑩ 舟を修る
 ⑪ 山を望む
 ⑫ 舟を操る
 ⑬ 酒を酌む
 ⑭ 傘を畳む
 ⑮ 舟を去る
 ⑯ 山を下る
 ⑰ 木を植える
 ⑱ 石を敷く
 ⑲ 舟を造る
 ⑳ 山を越える

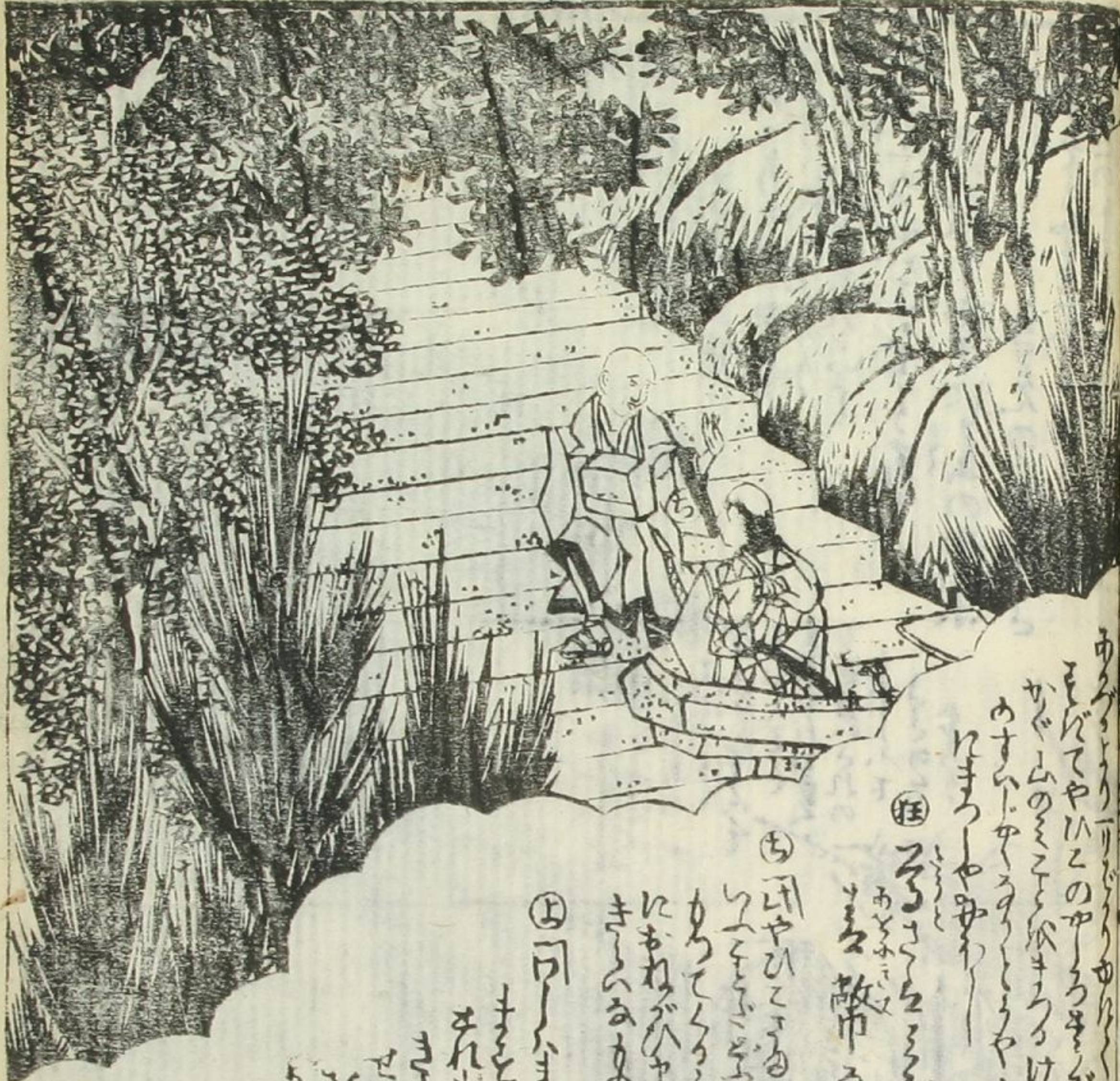
① 山の頂上
 ② 山の麓
 ③ 山の裾
 ④ 山の背
 ⑤ 山の腹
 ⑥ 山の腰
 ⑦ 山の首
 ⑧ 山の脚
 ⑨ 山の手
 ⑩ 山の顔
 ⑪ 山の心
 ⑫ 山の魂
 ⑬ 山の神
 ⑭ 山の霊
 ⑮ 山の精
 ⑯ 山の気
 ⑰ 山の力
 ⑱ 山の徳
 ⑲ 山の業
 ⑳ 山の福

① 舟の棹
 ② 舟の帆
 ③ 舟の櫓
 ④ 舟の舵
 ⑤ 舟の碇
 ⑥ 舟の櫓
 ⑦ 舟の帆
 ⑧ 舟の棹
 ⑨ 舟の櫓
 ⑩ 舟の帆
 ⑪ 舟の棹
 ⑫ 舟の櫓
 ⑬ 舟の帆
 ⑭ 舟の棹
 ⑮ 舟の櫓
 ⑯ 舟の帆
 ⑰ 舟の棹
 ⑱ 舟の櫓
 ⑲ 舟の帆
 ⑳ 舟の棹

① 舟の舟
 ② 舟の舟
 ③ 舟の舟
 ④ 舟の舟
 ⑤ 舟の舟
 ⑥ 舟の舟
 ⑦ 舟の舟
 ⑧ 舟の舟
 ⑨ 舟の舟
 ⑩ 舟の舟
 ⑪ 舟の舟
 ⑫ 舟の舟
 ⑬ 舟の舟
 ⑭ 舟の舟
 ⑮ 舟の舟
 ⑯ 舟の舟
 ⑰ 舟の舟
 ⑱ 舟の舟
 ⑲ 舟の舟
 ⑳ 舟の舟

① 舟の舟
 ② 舟の舟
 ③ 舟の舟
 ④ 舟の舟
 ⑤ 舟の舟
 ⑥ 舟の舟
 ⑦ 舟の舟
 ⑧ 舟の舟
 ⑨ 舟の舟
 ⑩ 舟の舟
 ⑪ 舟の舟
 ⑫ 舟の舟
 ⑬ 舟の舟
 ⑭ 舟の舟
 ⑮ 舟の舟
 ⑯ 舟の舟
 ⑰ 舟の舟
 ⑱ 舟の舟
 ⑲ 舟の舟
 ⑳ 舟の舟

修行



ふひ山とふりてせんら
 不どゆげばとけがなんら
 けりあり風のありまた
 かしこちゆでいりあはれ
 のびるものひくとれた
 うけりてとともあらん
 ちまもりとれより下り
 ままのまのふりある
 よめ山よりいりある
 るいんちきさるも
 りるのり十七八の
 ひさるるととくと
 かんく
 ⑤ 深つけの修行
 るるまよとつくと
 ぬれ入るまよとつくと
 あやふ
 ⑥ 山ふりといききてあれの
 のりてあまきまんのより
 はありまよとつくとつと
 あれとまよとつとつと
 おれまよとつとつと
 りかんさるんとまよとつと
 つとつとつとつとつと
 ちかづかすつとつとつと
 るまよとつとつと



あつてやハこの中らまよとつとつと
 かん山のまよとつとつと
 めすいんちきさるまよとつと
 りまよとつと

⑤ 山ふりといききてあれの
 のりてあまきまんのより
 はありまよとつとつと
 あれとまよとつとつと
 おれまよとつとつと
 りかんさるんとまよとつと
 つとつとつとつとつと
 ちかづかすつとつとつと
 るまよとつとつと

修行

山田屋の出来



月夜ふゆのそよ
かきつばたのうらみ
さびしきうらみ
いれなま



① かしらものまいた
しつこくおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

山田屋の出来
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい
おのれいおのれい

板とよ



① 山はたけのふもとに
 ② 山はたけのふもとに
 ③ 山はたけのふもとに
 ④ 山はたけのふもとに
 ⑤ 山はたけのふもとに

峯が金双

まがらふまがらふ
 人もあれはつねに
 なるもふたはてふ系
 うらさうげとま
 おにそれよりんが
 ねとよふかからこの
 まらふまらふまらふ



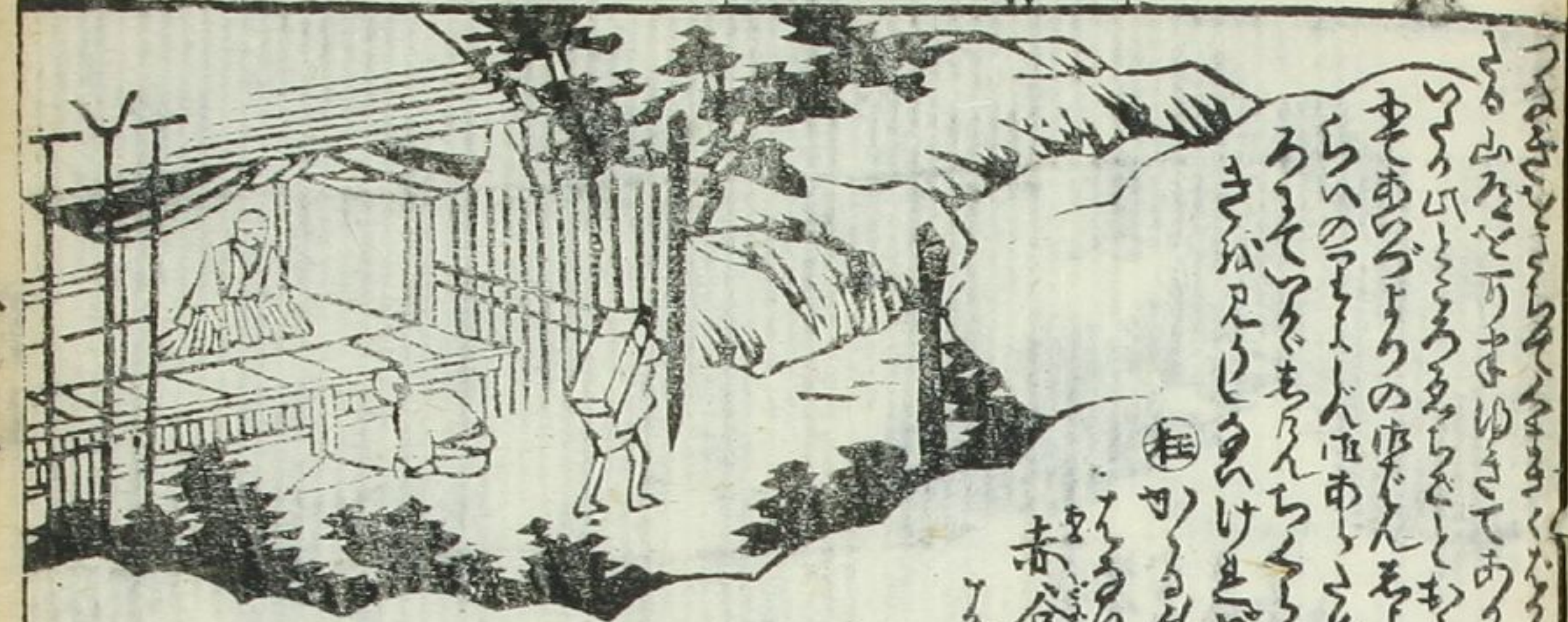
除上

あつちを
とちてしま
けりてしま
こーいりな
ア中まてま
のたれしよ
とちち
つちこれ
るのり
まき入
うい
除
あつちを
とちてしま
けりてしま
こーいりな
ア中まてま
のたれしよ
とちち
つちこれ
るのり
まき入
うい



あつちを
とちてしま
けりてしま
こーいりな
ア中まてま
のたれしよ
とちち
つちこれ
るのり
まき入
うい

赤谷



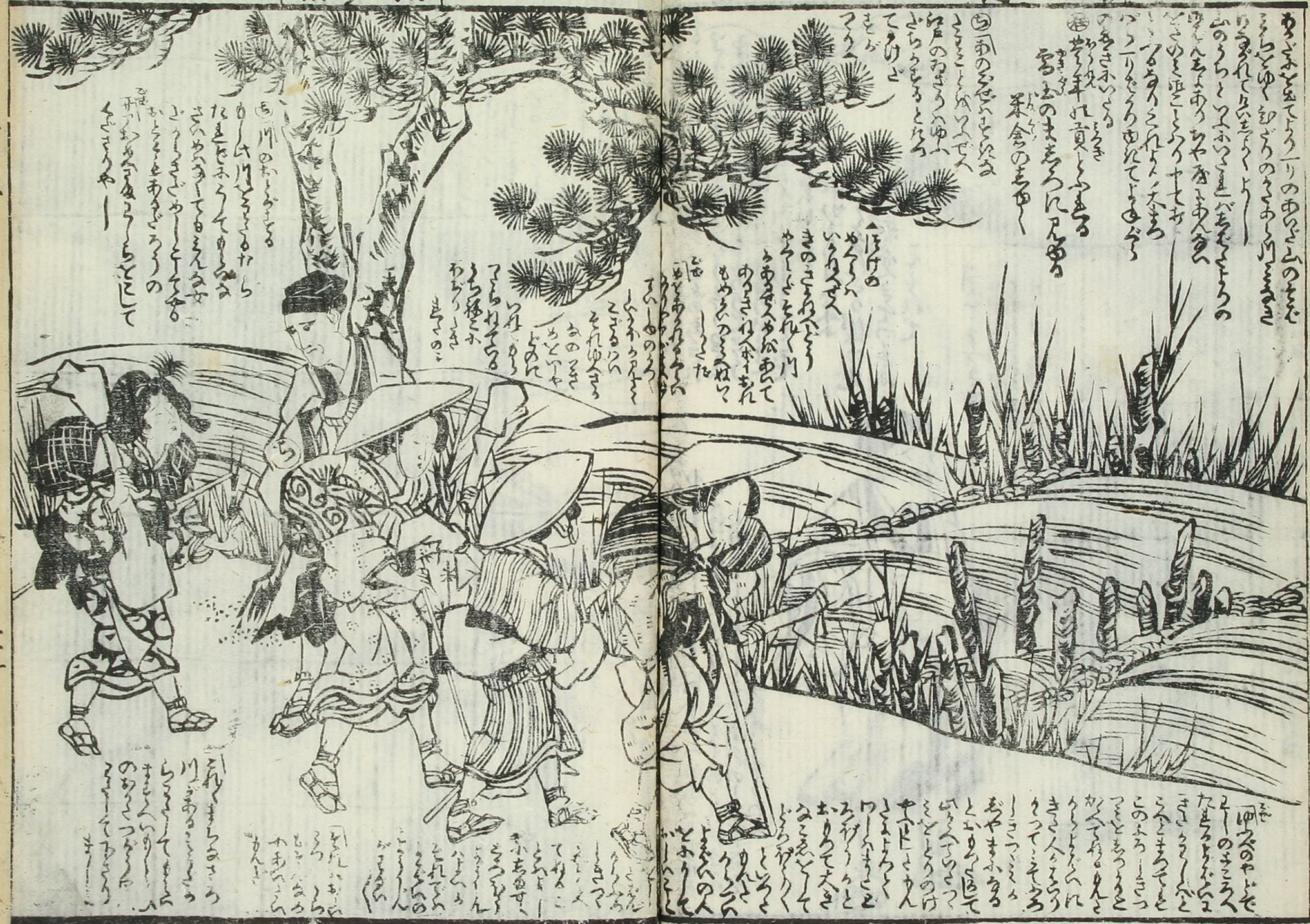
あつちを
とちてしま
けりてしま
こーいりな
ア中まてま
のたれしよ
とちち
つちこれ
るのり
まき入
うい



あつちを
とちてしま
けりてしま
こーいりな
ア中まてま
のたれしよ
とちち
つちこれ
るのり
まき入
うい

粘々會

山内



⑤ 川の上を歩くと
 水は清く流れてゆく
 魚も泳ぎまわっている
 鳥も鳴きまわっている
 風も吹いてまわっている
 雲も流れてまわっている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑥ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑦ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑧ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑨ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑩ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

⑪ 山内を歩くと
 山は高くそびえている
 谷は深く静かである
 木は緑豊かに茂っている
 水は清く流れている
 すべてが自然の恵み
 すべてが自然の恵み

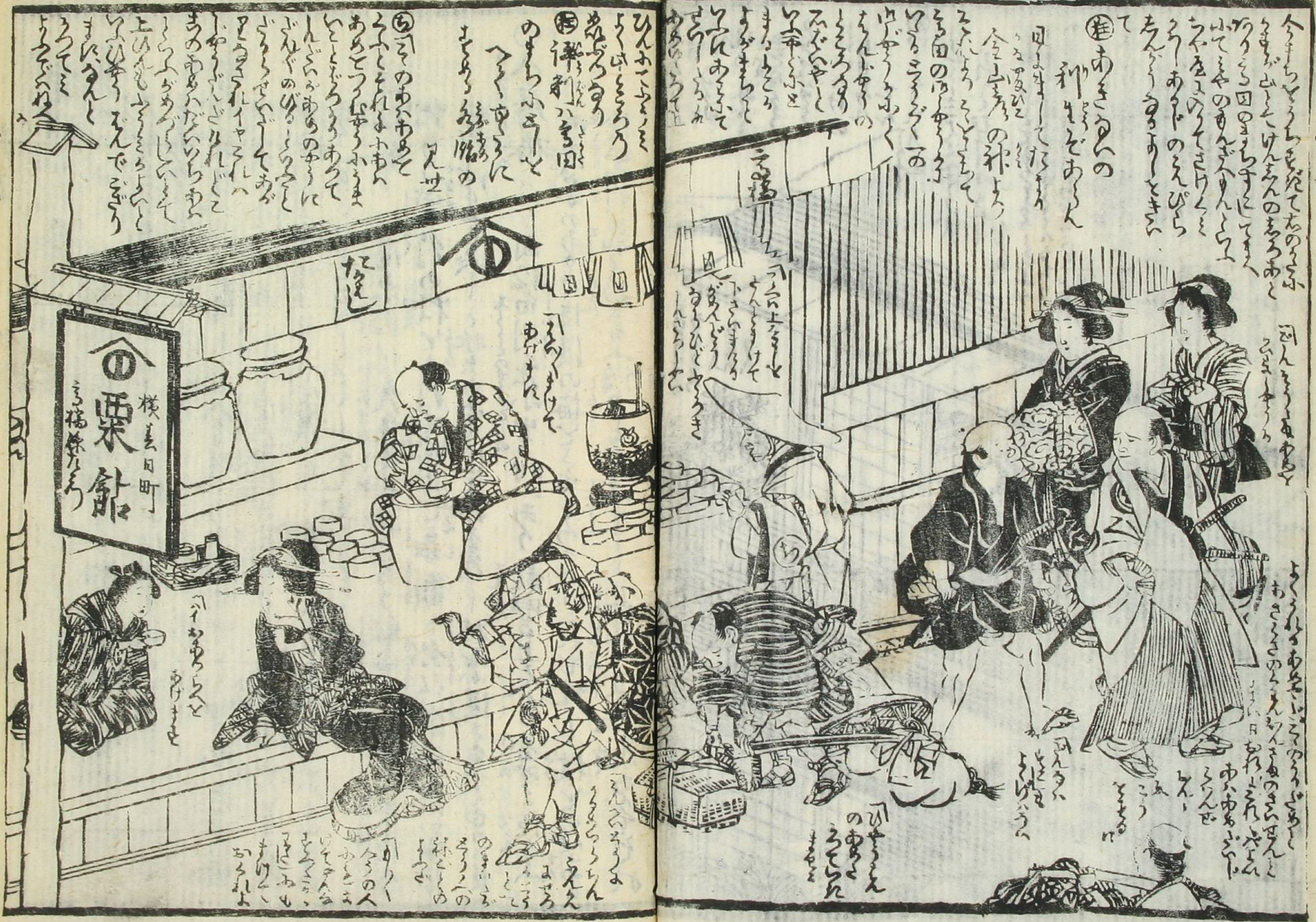
高田

今更らうとて...
あつたのち...
あつたのち...
あつたのち...

⑤あまの...
神...
あまの...

ひん...
あつたのち...
あつたのち...
あつたのち...

⑥あまの...
あつたのち...
あつたのち...
あつたのち...



高田

高田

當國七不思議之内

○臭水の油

如法村にあり常小酌取て燻油に
天智天皇七年越後より此物新小代を氷とすなりとありと

○迦羅目波之火

爾來入音村あり火地中より今氏家の園
如裏のうらふ石と穿ち竹の筒とてこれより火とす此
物燒くと無火陽のさふ棄てて去るは是地の陰火とす

○送板井

爾來入音村あり親學上人三年屋位乃
地より雲竹の板とありて地には家勸の念仏宗伝とす
は竹活生とす一と板をゆきてて板を一板を運さるふあり

○八房梅

同郡白川小出村あり親學上人を奉り位あり
村民家のあり梅の梅とてすつる所これとす一板とす
捨て竹の如く朽ちるあり河のく活生一其板一枚八房ありてこれ

○三度粟

味ひ佳くもく俗とれと八房とす
あも粟と比して我法多世昌んか
久不日芽とす一全粟林とす毎年

○弘智法印之拈鬚

三河郡那核村海山寺智院小あり法
中姓小玉氏下院の人より南園大浦の
御十月二日岩上小寂と合掌の内光腐
堂と建てこれを拈鬚なり
其外 川越之名号 波歌目 五福之靈
五福之靈等あり

平五秋七月末迄とす
見守りしきりて
今書群綿衣幸が板本金の年
長岡出中修新田
今書群綿衣幸が板本金の年

早稲田大学図書館

011688991937